

綾ユネスコ エコパーク

登録10周年を迎えて



脱炭素を目指し
国が強化を始めた
有機農業



先進技術を活用した
環境学習に取り組む
中学生



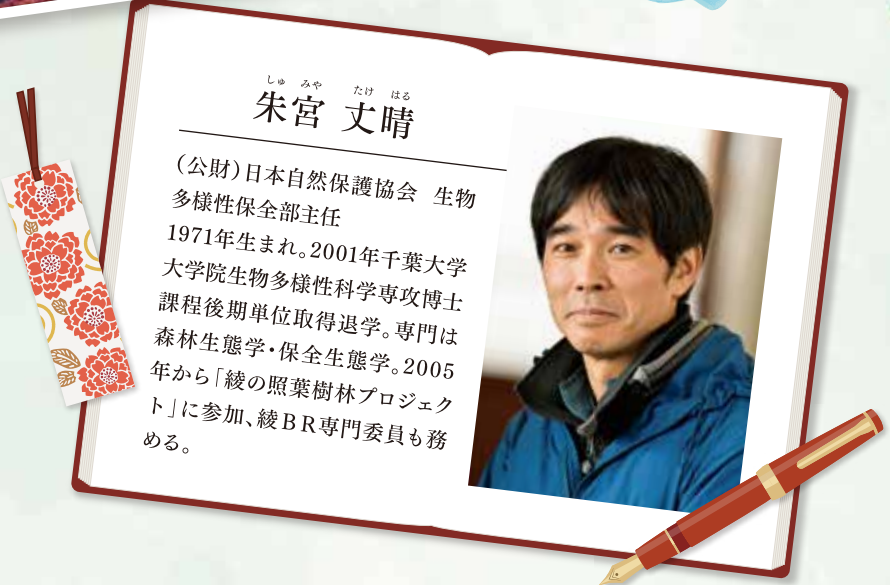
ユネスコスクールの
綾小・中学校で進む
ICT教育



ユネスコ
エコパークに
ふさわしい
景観づくり



里山の再生を
目指す植樹活動



しのみや たけはる
朱宮 丈晴

(公財)日本自然保護協会 生物
多様性保全部主任
1971年生まれ。2001年千葉大学
大学院生物多様性科学専攻博士
課程後期単位取得退学。専門は
森林生態学・保全生態学。2005
年から「綾の照葉樹林プロジェク
ト」に参加、綾BR専門委員も務
める。

2012年7月11日の登録から10年を迎える綾ユネスコエコパーク。長年、綾町で照葉樹林の調査や復元活動にかかわっておられる朱宮丈晴さんから、自然との共生を進める綾町の未来に向けたメッセージが寄せられました。

綾ユネスコエコパーク(BR)登録10年、おめでとうございます。2012年に綾BRが国内初の体制によって登録されたときの喜びや感動を今でもよく覚えています。登録にかかわれたこと、そして微力ながら10年にわたり活動支援ができたことを誇りに思います。

厳しい状況が続く地球環境

近年、「持続可能性(サステイナブル)」や「脱炭素(カーボンニュートラル)」といった言葉が時代のキーワードになっています。まずは、昨今の自然環境保全に関する世界の流れを振り返ってみたいと思います。

環境省の生物多様性総合評価(JBO)では、2016年に長期的な悪化傾向や生態系サービスが減少または横ばいであることが明らかになり、2021年には、成果を上げている取り組みがあるものの回復に至っていないとの評価がなされました。

生物多様性条約の各締結国の環境政策の成果などがまとめられた2020年の地球規模生物多様性概況では、経済・社会・政治・科学技術の横断的な社会変革が必要であると示されました。

皆さんにとって綾BR登録からの10年ほどのようなものだったでしょうか。目に見える変化といえば、町の入り口の看板やBRセンターの設置が挙げられるでしょう。実感をあまり持てなかった方、変化を感じなかった方もおられるかもしれません。

しかし、地道にそして丁寧に、BRとしての重要な運営基盤づくりが進められてきたことは間違いありません。ユネスコエコパーク推進室の設置(2013年)、綾町生物多様性地域戦略の策定(2015年)、綾BR管理運営計画の策定(2016年)、綾町イオンの森における里山再生(2017年)、綾町森林整備計画の策定(2018年)、第七次および第八次綾町総合長期計画でのBR関連施策の記載など、着実に前進してきたのです。

住民の豊かで幸せな営みに つながるBRへ

現在、登録から10年の節目にユネスコへの定期報告書がまとめられています。綾町の取り組みは、世界的な動向に適合した先進的な取り組みとして受理されるでしょう。そして、SDGsや生物多様性の保全、気候変動対策に取り組む「優等生」

国際社会では2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けた取り組みが進められています。また、2021年のG7首脳会合では、「遅くとも2030年までに生物多様性の損失を逆転させ回復させる」という宣言が発表されました。しかしながら、目標を掲げてはいるものの現実は厳しいままです。

地道にBRの 基盤をつくった10年

ここで、綾BRの登録理由を振り返ってみましょう。

- ①東アジアの照葉樹林の北限付近に位置し日本固有種が多い
- ②日本に残されている照葉樹自然林の面積が最も広く、標高が高い地域ではブナの自然林に連続している
- ③半世紀にわたり自然と人間の共存に配慮した地域振興策などが行われている
- ④「綾の照葉樹林プロジェクト」に取り組み照葉樹林の保護・復元を目指している

ご存じのとおり、綾町が積み上げてきたことが評価されたわけですが、地元の

として今後も注視され続けます。そうした中で最も重要なことは、綾町が大事にしてきた「安心・安全を基調としたほんもののまちづくり」が、すべての地域住民の豊かで幸せな営みにつながることで、地域住民から変わらぬ大切にされ、発展的に継承されていくことだと私は思っています。

ネイチャーポジティブで 世界の最先端を歩もう

照葉樹林の保全と復元が進み、自然生態系農業が次の世代に発展的に引き継がれ、伝統的な産業が維持され、ナチュラルガーデンなどの綾らしい景観や心地よい空間が作られ、ユネスコスクールの児童・生徒が世界を学び、人々が心豊かに交流し、あらゆる取り組みにおいて生物多様性の考え(ネイチャーポジティブ)がベースとなる。

これからの10年、綾ユネスコエコパークの住人がますます活躍し、この分野における世界の最先端を歩み続けることを期待しています。